

平成28年度 富山商業高等学校アクションプラン — 1 —

重点項目	学習活動	
重点課題	教科指導の充実と確かな学力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学習意欲や学習理解度に差が見受けられる。そのため、各教科において指導内容や指導方法の改善を図ることにより、生徒に意欲をもって授業に取り組み、確かな学力を身につけさせることが必要である。</li> </ul>	
達成目標	(結果目標) ①指導力の向上を意識した授業改善	(結果目標) ②学習意欲の向上
	(行動目標) ・他の教員の授業を、年間3回以上参観する。 (先生も学び合い)	(行動目標) ・生徒間で、学び合い教え合いを各自10回以上行う。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業週間(年3回)を定め、その間に他の教員の授業を3回以上参観する。</li> <li>参観者は、互見授業シートを記入し自らの授業改善に資する。</li> <li>授業実施者は、参観者の感想・助言を参考に授業改善に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が、学習に関して、わからないことや他の意見・考えを友達同士で教え合う「生徒学び合い週間」(年3回)を定め、期間中には10回以上行わせる。</li> <li>各期間後に学び合いシートを提出させる。</li> </ul>
達成度	互見授業を行った教員 92%	学び合いを行った生徒 94%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業について、昨年度から互見授業週間の実施時期・期間に自由裁量の幅を持たせた。また、若手教員、中堅教員、ベテラン教員を問わず、他の先生の授業を積極的に参観してもらうため、職員会議や朝礼時に声かけを行った。互見授業シートは、参観者が参観した授業に対する評価や感想、アドバイス等を記入のうえ、授業実施者にフィードバックした。</li> <li>生徒の学び合いについて、この取り組みを単なる期限までに規定の回数を守らせ、提出させるだけの課題(ノルマ)とならないよう、また自らが主体となって学習に向かおうとするきっかけとなるように定期考査や各種検定試験に合わせ、学年との連携を図りながら実施した。学び合いシートは、年度末に1年間にわたる学び合いを通しての感想を報告させた結果、多くの生徒から「学習意欲が向上した」という感想が寄せられた。</li> </ul>	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業は、教員47名(講師等を除く51名中)が3回以上行った。</li> <li>生徒の学び合いは、780名(827名中)が10回以上行った。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクティブラーニングの深まりを期待したい。そして大学入試改変に対するだけでなく、すぐに社会へ出て行く就職者においても「自分で考える」生徒を育ててほしい。</li> <li>教育のスキルアップのために互見授業の継続は、重要なことである。その結果、教育が向上したとか、達成感を得られたとかを計ることはできないか。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業、生徒の学び合いともに教員の指導力の向上や生徒の学習意欲の向上の良いきっかけになったと思われる。しかし、達成度については、互見授業、生徒の学び合いともに昨年度より下回った。今後は、さらなる教科指導の充実と確かな学力の向上を目指し、各教科において現在行っている互見授業や生徒の学び合いのあり方を検討、改善していく必要がある。</li> </ul>	

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった

平成28年度 富山商業高等学校アクションプラン —2—

重点項目	特別活動	
重点課題	部活動の活性化と競技力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は運動部17、文化部11の計28部が設置されており、全員部活動制である。</li> <li>・運動部・文化部ともに多くの部が、県大会優勝や全国大会入賞を目指して熱心に部活動に取り組んでいる。昨年度は全国大会出場者138名（17%）、北信越大会出場者が374名（45%）と一昨年よりも大幅に増加し、昨年度の達成目標を十分に達成できた。</li> </ul>	
達成目標	①部活動の個人目標達成度 (個人目標達成者数÷全校生徒数×100)	②全国大会・北信越大会出場生徒の割合 (大会出場者の延べ人数÷全校生徒数×100)
	70%以上	全国15%以上 北信越40%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間使用の部活動個人目標カードを作る。各年度で目標を立て、達成するための方策、目標の達成具合、次年度に向けて反省等を記入させ、生徒の意識を高める。</li> <li>・部活動の一層の活性化を図るため、各部におけるトレーニング講習会や技術講習会の充実を目指す。特に競技力向上に努める。</li> <li>・生徒がストレス無く部活動を行うために、部活動の環境整備に努める。</li> </ul>	
達 成 度	54.2%	全国大会 147名（17.8%） 目標達成！ 昨年度よりも多い  北信越大会332名（40.1%） 目標達成！
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレーニング講習会や技術講習会は実施できなかったが、練習試合や合宿、県外遠征などを計画し、競技力の向上に努めた。</li> <li>・世界大会等での活躍が、生徒ひとりひとりへの良い刺激となっており、学校全体で「がんばろう」という雰囲気になってきた。</li> </ul>	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に比べ、全国大会に出場した生徒数、部活動の数が共に増えた。</li> <li>・今年度は世界大会に出場した選手も多く、その大舞台でも活躍した。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加することに意義がある＝全員部活動加入がある一方で、成果を出すことも大切である。成功体験を積むことが人格形成につながる。</li> <li>・目標達成度は、一つの指標になるけれど、目標達成に向けてのプロセスを教育活動の成果として発信することも非常に大切である。</li> </ul>	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動個人目標カードは、目的意識を明確にして、意識を高める効果があったと思えるので、来年度も実施したい。</li> </ul>	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

平成28年度 富山商業高等学校アクションプラン —3—

重点項目	学校生活	
重点課題	「富山商業高校いじめ防止基本方針」に基づいたいじめの防止と意識の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団に溶け込めず、孤立しがちな生徒が少なからず見られる。</li> <li>・部活動・学年・学科・出身中学等様々な要素を含みながら、程度の差はあるものの、様々な形態でトラブルが発生している。</li> <li>・悪ふざけやちょっとした悪戯のつもりが人間関係を壊したり、人を傷つけたりすることに気付いていない、または軽く考えている生徒がいる。</li> <li>・毎年、ネットパトロールから、生徒の不適切な書き込み等の連絡がある。</li> </ul>	
達成目標	いじめに関するアンケートで「いじめに関わっていない」と答えた生徒の割合 100%	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月一回行われる全校集会（頭髪服装検査）の折にいじめ防止について呼びかける。</li> <li>・各種講話をおこない、身近な事件・事故や事例を知るとともに、ルールやマナーの意識を高め、互いを尊重する気持ちや、いのちを守る態度を身につけることが、いじめの無い学校生活を築くことを理解させる。</li> <li>・各学期末にいじめに関するアンケートを行い、いじめ防止の意識を喚起する。</li> </ul>	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに関するアンケートで「いじめに関わった」と答えた生徒は1・2学期ともに1パーセント台で目標は達成できなかった。いじめの件数は昨年度と変わっていない。</li> <li>・いじめに関する校内研修会は実施できなかった。</li> </ul>	
具体的な取組状況	<p>○いじめに関するアンケートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2学期に全校生徒にいじめに関するアンケートを実施した。結果をもとに、担任を中心に、早期対応を図っている。また、全校集会等の機会に注意喚起を行っている。</li> </ul>	
評 価	C	深刻ないじめ問題は起こっていないが、誹謗中傷など様々な事案が集団の中で発生・終息を繰り返している。人間関係等で悩む生徒も少数いる。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに対する取り組みは継続的にやっていかなければならない。いじめに対してどう取り組むか、対処するかが大切で、人権に関する研究及びいじめ事例の蓄積、教員の研修が必要である。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の規範意識の向上や、他人を思いやれる態度の育成を図り、いじめの根絶を目指す。(具体的には、さらに生徒への声かけを心がける)</li> </ul>	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

平成28年度 富山商業高等学校アクションプラン —4—

重点項目	進路支援	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己理解を高め、能力に合った進路選択</li> <li>・職業観・勤労観を身に付けさせ、社会状況の変化に対応した進路指導</li> <li>・進路指導の組織的・計画的な取り組みを通して、効果的な進路支援策の施行</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業観・勤労観に関する意識が希薄な生徒は進路選択が遅れる。</li> <li>・自己理解ができていない生徒は、安易な選択をしてしまう生徒が見られる。</li> <li>・昨今、就職希望の生徒が漸増傾向にある。</li> <li>・自己理解ができていないため、憧れと自己の実力が見合わないままに、進路選択を行い、結果に苦慮する生徒がいる。</li> </ul>	
達成目標	①生徒の進路満足度（卒業時）	②就職者の内定率
	98%以上	100%
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進学希望や就職希望の如何を問わず、自己の将来を主体的に考えさせ、能力適性にあった進路選択を行うよう指導する。</li> <li>・個人面接・ホームルーム・進路説明会を通じて、生徒の志望の実態を把握し、家庭との共通理解を図る。その際生徒・保護者に適切な情報を提供できるよう資料の充実を図る。</li> <li>・進路意識の啓発やその実現を目指し目標に向かって努力する生徒に対して、全教員による面接指導や個別学力補充の場を提供する。</li> <li>・進学から就職、就職から進学といった志望変更が安易な形で行われることの無いよう、生徒自身の考えを確立させるため十分に話し合い、保護者との連絡を実施し、ミスマッチのない進路選択につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が志望動機について、深く考えた上で就職と向き合うための方策として応募前見学等を積極的に勧め、雇用のミスマッチを避ける。</li> <li>・生徒の選択の幅を広げるために、教職員による企業訪問をより積極的に行い、求人開拓を行う。</li> <li>・希望企業への実践的な面接対策や基本的な学力指導を行い、選考の際に実力が発揮できるようにする。</li> <li>・企業やハローワーク等の連携を強化し、就職に関する情報の収集に努め、適切な提供を行う。公務員志望者については、模擬試験や、専門学校が実施するセミナーなども積極的に活用させる。</li> </ul>
達成度	98.0%	100%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業訪問については教職員の協力の下、より多くの企業を訪問して状況把握に努めた。</li> <li>・担任、学年と連絡を密にとり、生徒の希望を踏まえ各個人との面談の機会を多く設け、ミスマッチが生じないように自らの進路に対する意識をしっかりとらせるよう配慮した。</li> <li>・進学から就職への希望変更についても、生徒個々の状況に応じて指導を行った。</li> <li>・就職希望者には、ミスマッチを防ぐために積極的に2社以上の応募前見学に参加させた。</li> <li>・求人状況もよく、1次選考後の未決定者も早く決定することができた。</li> <li>・就職進学とも、面接指導は全教職員で、個別学習指導は各科目担当者で協力して行った。</li> <li>・進路ガイダンス、オープンキャンパスの情報提供なども学校で積極的に紹介した。</li> </ul>	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職内定率は12月中に達成できた。3学年生徒の進路満足度も1月末で目標数値に達した。今年度の目標達成は十分できたと思われる。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度は大切であるが、ゴールの設定ではないので、結果的にミスマッチにならないように、しっかりした考え方を身につけてほしい。また、「働き方」についての多様性にも理解を深めてほしい。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路について考えさせるために、各自の適性や学力などを客観的に捉えさせ、情報提供や援助を行う。また、学年との連携を密にして、生徒の進路希望状況を把握し、資料の充実を図り、早くからの指導を行っていく。公務員希望者への指導も充実していきたい。</li> </ul>	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

平成28年度 富山商業高等学校アクションプラン —5—

重点項目	学習活動	
重点課題	検定・資格取得の充実	
現 状	<p>&lt;平成27年度 全商主催検定1級種目別合格者数&gt; 延べ522名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・珠算・電卓実務検定 (218名)      ・ビジネス文書検定 (30名)</li> <li>・簿記実務検定 (145名)      ・英語検定 (8名)</li> <li>・情報処理検定ビジネス部門 (41名)      プログラミング部門 (6名)</li> <li>・商業経済検定 (74名)</li> </ul>	
達成目標	全商主催の各種検定1級合格 延べ合格者数	
	延べ550名以上	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定取得の達成目標をもたせることにより、生徒の学習意欲を喚起する。</li> <li>・基礎基本の着実な定着を図るとともに、生徒の能力を最大限に伸ばすための学習指導体制を充実する。</li> <li>・1月に行われる検定については、補習授業を行い、学力の向上を目指す。</li> </ul>	
達 成 度	<p>【目標達成度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度合格者目標延べ550名に対し 延べ 377名合格</li> <li>・多くの生徒が、検定試験の意義を理解し、積極的に検定取得に取り組んだ。</li> </ul> <p>&lt;平成28年度 全商主催検定1級種目別合格者数&gt; 延べ377名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・珠算・電卓実務検定 (110名)      ・ビジネス文書検定 (22名)</li> <li>・簿記実務検定 (68名)      ・英語検定 (18名)</li> <li>・情報処理検定ビジネス部門 (55名)      ・プログラミング部門 (12名)</li> <li>・商業経済検定 (92名)</li> </ul>	
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時より検定試験取得の有用性を生徒に理解させ、上位級への取得意欲を高めさせた。</li> <li>・検定試験時期には、特別補習を実施するなど検定対策学習を強化した。</li> <li>・1月には7限目補習を実施し、問題演習などの時間を増やした。</li> </ul>	
評 価	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習済み基礎内容(2,3級)の再確認が不足していた。</li> <li>・パターン問題は解けるが、応用力を問う問題に対応できない生徒が多かった。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その年その年の結果ではなく、卒業時の取得割合などに着目してはどうか。</li> <li>・応用力の不足は最近の若者の傾向と感じている。検定において、3級から順番に確実に積み上げて取得できているのか、また理解できているのかの確認が必要である。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<p>基礎基本の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から学習済み内容の再確認をさせる機会を設ける。(振り返りながらの学習の深化)</li> <li>2・3級の範囲を既習とするのではなく、教科書などで再確認をさせる。</li> <li>・問題演習に加えて、文章を読み取る力の養成が必要。(問われている本質の理解)</li> <li>正解率が低い問題に対して重点的に解説・演習を行う。</li> </ul>	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

平成28年度 富山商業高等学校アクションプラン — 6 —

重点項目	学習活動	
重点課題	「模擬株式会社 TOMI SHOP」を通じた体験学習の充実	
現 状	仕入先研修体験学習や「模擬株式会社TOMI SHOP」の運営を起業家教育や進路学習に役立てている。	
達成目標	①社会人基礎力「3つの能力/12の要素」	②「模擬株式会社 TOMI SHOP」の満足度 (お客様・生徒)
	自己の3階評価 A 30%以上 B 70%以上	満足以上の割合 90%以上 大変満足の割合 60%以上
方 策	<p>(1)「TOMI SHOP特別授業」の改善 「TOMI SHOP特別授業」を実施し、「TOMI SHOP」に向けて必要な知識を生徒に理解させる。授業後にアンケートを実施し、生徒の変化を把握して取り組みに生かす。</p> <p>(2)仕入先研修体験学習 「TOMI SHOP」の協力企業先で研修を行うことにより、商人のあり方を学び、その成果を「TOMI SHOP」の経営に生かす。</p> <p>(3)模擬株式会社「TOMI SHOP」(起業家の育成) ・模擬株式会社を設立し、会社組織で店舗経営や販売活動を行う。 ・「株主総会」において営業報告、決算報告、利益処分を行う。</p> <p>(4)キャリアガイダンスの実施 地元経済団体との連携により、キャリア教育の充実を図り、勤労観、職業観を育成し、問題解決能力を育て、地域社会に貢献できる職業人の育成を目指す。</p>	
達成度	A評価12項目中11項目が30%以上 (規律性57% 主体性56%) (創造力31% 計画力27%) 計画力が達成できなかった。 B評価12項目中12項目が70%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様 満足以上の割合…約98% (+3ポイント)</li> <li>・生徒 満足以上の割合…約94% (+1ポイント) 大変満足の割合…約61% (-2ポイント)</li> </ul>
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力の3つの能力と12の能力要素について、生徒に事前・事後に自己評価させた。社会で求められている能力について意識し、目的をもって体験学習に取り組むことができた。自ら学ぶ姿勢を育て、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけさせるように、全教員協力のもと取り組んだ。</li> <li>・1年生はビジネスマナー教室、2年生はキャリアガイダンス、経理課は経理事務講習会などを実施し、外部より講師を招いて働くことの意義や社会人として求められることについて講義を受けた。</li> <li>・さまざまな場面において生徒指導部や学年などの協力のもと、販売員としてあるべき姿や授業の一環であること、社会で求められていることについて指導を継続的に行った。</li> <li>・ものが売れる仕組みを考え、実践行動できる生徒を育てる授業を実施した。</li> </ul>	
評 価	A	社会人基礎力の自己評価においては、前に踏み出す力・チームワークで働く力において評価できる結果が得られたが、考え抜く力においては課題が残った。お客様の満足度と生徒の満足度においては目標を達成することができた。大変満足の割合が減少したことが課題であり、今後分析していきたい。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自己申告による評価に加えて、相互評価を取り入れたことは、評価結果の信頼性という点で有意義であった。</li> <li>・この学校ならではの取り組みであり、継続をお願いしたい。</li> </ul>	
次年度へ 向けての 課 題	育てたい生徒像を明確にして、全教員の共通理解のもと、3年間を通して地域社会に貢献できる職業人を育成していきたい。社会人基礎力の自己評価を継続して実施し、さらに起業家の育成のための方策も考えていきたい。商業科目の授業との関連性を深め、ケーススタディを取り入れ、主体的に考える力を持った人材を育成していきたい。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

平成28年度 富山商業高等学校アクションプラン —7—

重点項目	特別活動	
重点課題	読書への関心・意欲を高め、読書習慣をつけさせる。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1ヶ月平均の来館者数を調査したところ、昨年度は698人であった。雑誌の利用を中心に昼休みの来館者は増えてきている。それを維持するとともに、読書の動機付けとなる様々な工夫が必要である。</li> <li>・昨年度の生徒1人当たりの貸出図書冊数は2.5冊で、平成26年度の2.2冊から微増した。今年度もさらに増加するよう、より一層の利用を呼びかけていきたい。</li> </ul>	
達成目標	① 1ヶ月平均の図書館来館者数（延べ人数）	② 生徒1人当たりの貸出図書冊数
	700人以上（4月～1月）	2.7冊以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より多くの生徒に図書館を利用してもらえるよう、図書館内や図書館前廊下において本のPRや展示方法に工夫を凝らし、図書館に入りたくするような雰囲気作りに努める。</li> <li>・図書や雑誌の購入にあたり、生徒や教員の希望をより多く取り入れ、利用を促進する。</li> <li>・授業で図書館を利用された先生方に協力を得て、調べ学習用の蔵書の充実に努め、図書館の有用性を高める。</li> <li>・来館者の興味・関心に合わせ、おすすめ本の紹介などを積極的に行い、読書の推進を図る。</li> <li>・夏休みや冬休みなどの長期休業期間に本を借りるよう、HR等を通して呼びかける。</li> </ul>	
達 成 度	106% ※1ヶ月平均 742人 （1月20日現在）	90% ※生徒1人当たり 2.43冊 （1月20日現在）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節や行事、時事に応じた図書館内や図書館前廊下における展示の工夫。また本の廃棄を行うことで空いたスペースの有効利用。</li> <li>・店頭選書（紀伊國屋書店）や校内選書を行い、生徒の要望に即した本の購入。また雑誌の見直しや創刊された雑誌（北日本新聞社発行）への対応。</li> <li>・「図書館だより」や「新着図書」を通しての図書館利用の呼びかけ。</li> </ul>	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者数は昨年と同時期に比べ1割増だった。4月当初から入館者が多く、多くの生徒たちが図書館に対し親近感をもっていることが感じられた。</li> <li>・生徒1人当たりの貸出図書冊数は昨年を下回った。図書館の授業利用の減少と2年生の貸出冊数が少なかったことが要因として考えられる。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この指標は、この先も計測した方がよいと思う。様々な利活用を考えていただきたい。</li> <li>・単純に延べ数が増えたらよいというものではない。全く利用しない生徒にどう働きかけるか考えなければいけない。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者数は増えつつあるが、それらの生徒たちにいかに読書の楽しさを知ってもらい、読書意欲に結びつけるか。</li> <li>・いかに図書館の授業利用を増やすか。</li> </ul>	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった

平成28年度 富山商業高等学校アクションプラン —8—

重点項目	学校生活	
重点課題	独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入と学校管理下における災害発生状況の調査および事故防止の徹底を図る。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入率は100%を維持しているが、加入は任意であり、掛け金や保護者の同意書が必要なため今後も強く加入を呼びかけ、100%を堅持したい。</li> <li>生徒や顧問、担任、授業担当者への注意喚起が十分伝わっておらず、比率的には怪我の減少が見られるが、発生件数自体はそれほどの減少が見られない。</li> </ul>	
達成目標	①加入率の維持	②事故発生率の減少
	100%	9.0%以内（昨年度8.83%：73件）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>加入に関しては入学式後に保護者へ直接呼びかけをする。（合格者説明会、PTA入会式）</li> <li>事故防止の徹底を図るために県や国の事例や発生率を調査するとともに、生徒が実際に遭遇した事故の例などを生徒に紹介し、危険箇所や事故の起こりやすい状況等について生徒や顧問、担任、授業担当者へ注意喚起したい。また、保健だより等を活用し、生徒自身が危険を予知したり、回避したりできるように指導育成する。</li> <li>通学路の安全対策（危険箇所の確認と安全マップの作成）をする。</li> </ul>	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害共済給付制度加入率100%</li> <li>事故発生率7.22%（平成29年1月末現在）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入率は3年連続100%を達成。</li> <li>事故発生件数60件：昨年同時期63件：7.62%</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入率は100%を達成することができた。次年度も達成できるよう、保護者に呼びかけていきたい。</li> <li>事故の防止については、事故の事後処理に終始し、発生原因のとりまとめや、計画的な事故防止の呼びかけには至らなかった。</li> <li>通学途上の事故防止等に関する取り組みは、実施できなかった。</li> </ul>	
評 価	C	独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入率100%は達成できたが、不登校、学校不適應、心理的な原因による体調不良等への対応や、相談、カウンセリングに関する事案への対応に追われ、所期の目標は達成できなかった。
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>この指標についてはもちろんのこととして、事故やけが防止の指導の取り組みは、地味ではあるが、繰り返し、タイミングを捉えて行ってもらいたい。</li> <li>スクールカウンセラーのカウンセリング実施を増やすなどの取り組みを期待する。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	引き続き独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度への加入率100%に取り組むとともに、学校管理下での事故発生率の減少に取り組んでいきたい。また、生徒の心の健康についての取り組みとして、不登校や、相談、カウンセリングに係る諸問題について実態を把握し、適切な対応を充実させていきたい。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：やや不十分だった D：不十分だった



平成28年度 富山商業高等学校アクションプラン —9—

重点項目	その他	
重点課題	P T A活動への関心を高め、自主的・積極的な参加を推進する。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A総会への出席率は、3学年の進路説明会を同時開催することで50%を超える水準となったが、今後もより多くの会員に出席してもらいたい。</li> <li>・ P T A視察研修の満足度は約80%、食堂利用体験は100%であった。</li> </ul>	
達成目標	① P T A総会への出席率	② P T A視察研修事業・食堂利用体験の満足度
	50%以上	90%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A定期総会の土曜日実施と1・2年生の授業参観・学年別懇談会の同日実施を継続するとともに、3年生は進路説明会を同日実施することで保護者の日程的な負担を軽減するとともに、定期総会への参加率向上も図る。また、駐車場確保など保護者が参加しやすい環境を整え、事前の諸連絡を配布物とメール配信両方で行う。</li> <li>・ P T A視察研修先の事前アンケートと実施後の事後アンケートを継続実施し、その内容を踏まえて、より魅力ある研修会となるよう計画を立案する。また、食堂利用体験についても、事後アンケートを参考に、より満足度を高められる計画とする。</li> </ul>	
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A総会 46.3% (831名中385名参加)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A視察研修事業参加者アンケート(回答26名) <ul style="list-style-type: none"> <li>① 非常によかった 19名 73.1%</li> <li>② よかった 6名 23.1%</li> <li>改善が必要 1名 3.8%</li> </ul> </li> <li>・ P T A食堂利用体験参加者アンケート(回答30名) <ul style="list-style-type: none"> <li>① 今後も事業継続してほしい 29名 96.7%</li> <li>② 今回限りでいい 0名</li> <li>③ どちらでもいい 1名 3.3%</li> </ul> </li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5月上旬の土曜日午前に公開授業、P T A定期総会、学年別懇談会を実施する取り組みも定着し、50%近く出席率を保てるようになってきた。</li> <li>・ 3年生は昨年度と同じく学年別懇談会を含めた進路説明会を同日開催とすることで、多くの保護者に参加してもらえるようになった。(3年生保護者の総会出席率は約66%)</li> <li>・ P T A視察研修事業では視察先の希望調査を3月に1・2年生保護者に対して実施し、過年度の視察先データを加味しながら希望にそった進学先2校・就職先1社をP T A企画委員で選定し、依頼交渉を進めた。</li> <li>・ 視察研修先での研修内容に、本校卒業生の入学・入社してみたいの感想や高校時代にもっと力を入れて取り組めば良かったことなどを話してもらった。また、今年は富山国際大学の学生食堂を利用させてもらうなど、保護者の希望を取り入れた。</li> <li>・ 食堂利用体験は、事前の企画委員会で、当日提供してもらう定食メニューや日程などについて多くの意見を頂き、それに沿った内容で企画・実施した。結果として昨年度の3倍のP T A会員の参加を得た。</li> </ul>	
評 価	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総会の出席率は目標値を3.7%下回ったが、P T A視察研修事業とP T A食堂利用体験はとも目標値に達した。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、学校と保護者のコミュニケーションがはかられる取組を考えていただけるようお願いしたい。</li> <li>・ 就職先の見学ということで希望があれば、受け入れ可能である。</li> </ul>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度の具体的な取り組み内容を来年度も引き続き推し進め、現状より落ち込むことのないようにする。またP T A定期総会の日3学年の進路説明会を併せて実施することも続け、保護者の日程的な負担を軽減する。</li> <li>・ 視察研修の参加者は微増、食堂利用体験の参加者は大幅に増えた。今後も事前・事後のアンケート結果やP T A企画委員の方々の意見も多く取り入れ、より多くの要望を実現できるよう、企画内容を検討していく必要がある。</li> <li>・ 各P T A事業に多くの参加が得られるよう、文書での案内と併せ、メール配信などを用いた積極的なP Rを継続していく事が重要と考えている。</li> </ul>	

<評価基準> A:達成した B:ほぼ達成した C:やや不十分だった D:不十分だった